

## セト研第19回（金沢）大会報告

大会会長 平口 哲夫

本誌 22 号でお知らせしたように、日本セトロジー研究会第 19 回大会は、創立 20 周年を記念して、当研究会の前身・日本海セトロジー研究グループ発祥の地である金沢で下記のごとく開催されました。

開催日：2008 年 6 月 21 日(土)～22 日(日)

会 場：KKR ホテル金沢

詳細については発表要旨集や当方管理のウェブサイト譲り、本稿ではそこに紹介されていない事柄を中心に報告することにいたします。

金沢での開催は今大会で 5 回目、石川県での開催は今大会で 7 回目ということになります。私の勤務先の金沢医科大学では、職員が学会（セト研の場合は大会）の会長を務めていれば開催補助金の申請資格があり、教授の場合は同大学の後援会からも補助金を得ることができますので、今回も当方が大会会長として補助金を申請した結果、合計 487,000 円が交付されました。

初日に公開講演と総会・懇親会、二日目に一般研究発表（口頭発表とポスター発表）が行われ、講演や研究発表の内容はもちろんのこと、設備や役割分担も含めて全体的になかなか良かったと思うのですが、ただ残念なことに参加者数が予定の 100 名を大幅に下回る 66 名であったことから、学長宛てに理由書を書かなければいけない羽目になりました。その理由をご参考までに原文のまま次に紹介いたします。

“当初、当大会は平成 20 年 6 月 21 日・22 日に開催する予定で準備を進めてきましたが、特別講演者であるフォーダイス博士（ニュージーランド）とミード博士（アメリカ合衆国）は 6 月 9 日～13 日に国立科学博物館で開催される「四肢動物の水生適応に関する国際会議」に出席するついでに当大会で講演していただく都合上、大会開催日を 1 週間早めてほしいという要望が日本セトロジー研究会代表（山田 格、国立科学博物館動物研究部）から急遽、当方に寄せられました。そこでやむを得ず、開催日を 6 月 14 日・15 日に変更いたしました。ところが、6 月 14 日・15 日は、日本文化財科学会などの大会開催日や水族館関係の諸行事なども重なり、また、当方が非常勤講師を勤める金沢学院大学美術文化学部文化財学科のスタッフ・学生が発掘調査中ということもあって、参加者が大幅に減ってしまった次第です。”

日程変更による参加者数の大幅減少というマイナス面はありましたが、フォーダイスさんとミードさんという一流の研究者に特別講演をしていただけたということには大いに感謝しています。また、分子系統学や個体発生に関する特別講演だけですと、限られた分野からしか参加してくださらないおそれがありますので、人文・社会科学的な分野のお話しも聴

けるように、セト研会員の江上・小島さんご夫妻にも特別講演を急遽お願いし、お引き受けいただいたことを記し、改めて感謝申し上げます。

一般研究発表においても、考古学、文化人類学、古生物学を含む多様な分野の発表がありました。また、ベテラン研究者の発表はもとより、国立科学博物館、北海道大学、愛媛大学などに集う学生・院生による発表も多く、セト研の将来に明るいものを感じました。大原順一さん（新潟県野鳥愛護会）が撮影した、オウギハクジラの子どものブリーチングシーンを発表要旨集の表紙に掲載させていただいたことも特筆に値します。

なお、二日目大会終了後、江上・小島さんご夫妻と一緒に東山界限を散策中、フォーダイスさんやミードさん、岩手県立博物館の大石さん、北海道大学の松石さんたちと偶然出会い、小さな居酒屋で夕食をともにし、とても盛り上がりました。そのときの写真も前述のサイトに掲載されています。

### 日本セトロジー研究会第 19 回(金沢)大会プログラム

#### 【6 月 14 日（土） 特別講演・総会・懇親会】

- S1 鯨類進化の分子系統学、化石の照合、環境の物理的影響 R・ユアン・フォーダイス（オタゴ大学）



- S2 アカボウクジラ科の個体発生－骨年齢査定によって明らかにされた変化 ○ジェイムズ・G・ミード（スミアン研究所）、バナデット・M・アレン（アラスカ水産科学センター）、チャールズ・W・ポッター（スミアン研究所）





S3 インドネシア，ラマレラ村の捕鯨と近代化 江上幹幸  
(沖縄国際大学)，小島曠太郎 (作家)



懇親会







【6月15日(日) 口頭発表・ポスターセッション】

- 1 富山県の縄文遺跡出土の鯨類遺体 町田賢一(富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所)
- 2 盤亀台岩刻画の捕鯨図再考 平口哲夫(金沢医科大学)
- 3 インドネシア, ラマレラ村の捕鯨記録 2006~2008  
○江上幹幸(沖縄国際大学), 小島曠太郎(作家)
- 4 カナダ, ニューファンドランドおよびブラダドル州における商業捕鯨の歴史—特に日本との関係を中心に—  
浜口 尚(園田学園女子大学短期大学部)
- 5 北海道天塩中川地域の最上部中新統声間層より産出したイルカ化石(鯨目:マイルカ科)とその系統学的意義  
○村上瑞季(早稲田大学), 嶋田智恵子(秋田大学), 疋田吉識(中川町エコミュージアムセンター), 平野弘道(早稲田大学)
- 6 北上低地帯, 竜の口層産ヒゲクジラ類化石, *Herpetocetus* とその古生物学的意義 大石雅之(岩手県立博物館)
- 7 日本海海底産のアカボウクジラ類化石について 長澤一雄(山形中央高校)
- 8 2007年中における佐渡海峡の新潟~両津航路船(佐渡汽船)による鯨類目撃記録 ○本間義治(新潟大学), 川原芳明(佐渡汽船)



- 9 直江津-小木航路の船上から目視した鯨類について  
○大原淳一(新潟県野鳥愛護会, 上越探鳥の会), 山田格(国立科学博物館)
- 10 ツノシマクジラと「ニタリクジラ」, ちょっと複雑  
○山田 格(国立科学博物館)

- 11 シロナガスクジラの下顎骨挙上時のシミュレーション ○新村龍也(新潟県立自然科学館)・大石雅之(岩手県立博物館)
- 12 2007-2008年に漂着したオウギハクジラ ○谷田部明子(東京海洋大学), 松石隆(ストランディングネットワーク北海道), 福島広行, 東出幸真(のと海洋ふれあいセンター), 工藤英美(NPO 法人 白神ネイチャー協会), 和田昭彦(稚内水産試験場), 北村志乃(北海道大学), 山田格(国立科学博物館)
- 13 愛媛県興居島に座礁したスジイルカ(*Stenella coeruleoalba*)の有機ハロゲン化合物汚染の実態と過去復元 ○磯部友彦・越智陽子・Karri Ramu(愛媛大学), 山本貴仁(愛媛県立科学博物館), 高橋 真・田辺信介(愛媛大学)
- 14 瀬戸内海~響灘に生息するスナメリの食性 ○鈴木夕紀(日本セトロジー研究会), 山田格(国立科学博物館), 石橋敏章, 高田浩二, 田中平(瀬戸内海西方海域スナメリ協議会), 谷内透(日本大学)



- P1 イルカ骨多量出土後の真脇遺跡発掘調査 高田秀樹(能登町真脇遺跡縄文館), ○平口哲夫(金沢医科大学), 真脇遺跡調査団
- P2 富山県高岡市から産出した海生哺乳類化石 ○長澤一雄(山形中央高校), 葉室麻吹・水上輝夫・安田俊雄・中川賢勇・葉室俊和(富山県古生物研究会)
- P3 2007年度北海道沿岸のストランディングレコード  
○松石隆・田口美緒子(ストランディングネットワーク北海道)
- P4 津軽海峡における鯨類の構成種と地理的・季節的分布についてV~カマイルカの地理的分布と水温の関係~



○堀本高矩・金子拓未・山口鉄平・岡崎宏美・寺岡峻・東勝輝・大岡恵里・北山春菜・柴龍太郎（北海道大学鯨類研究会），松石隆（北海道大学）

P5 新潟県沿岸・沖合における海生哺乳類の漂着・混獲・目撃記録（2007年6月～2008年5月） 本間義治（新潟大学），○箕輪一博（柏崎博物館），中村幸弘（上越水族館），岩尾一（新潟水族館），青柳彰（寺泊水族館）

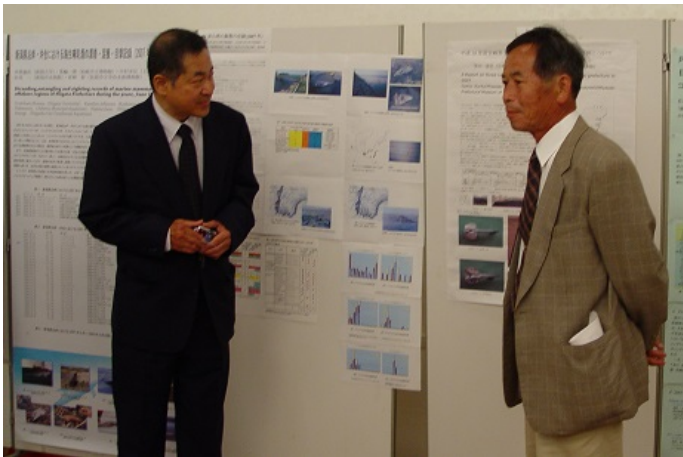
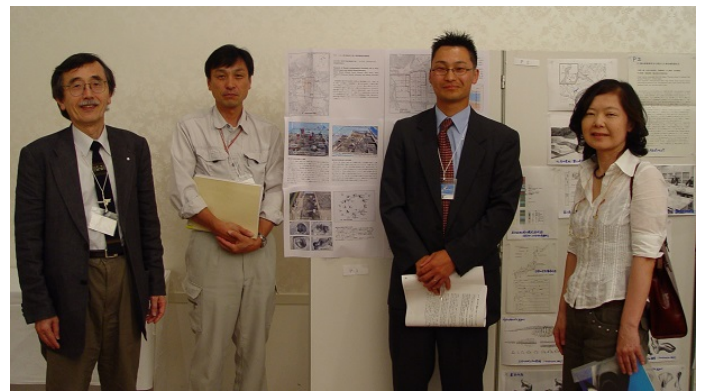
P6 富山湾の鯨類の記録（2007年） ○南部久男（富山市科学博物館），山田格（国立科学博物館），石川創（日本鯨類研究所），台藏正一（あすなる目高文庫），関東雄

P7 平成19年度宮崎県で実施した埋設くじら骨格発掘の3例について ○栗田壽男（宮崎くじら研究会），末吉豊文（宮崎県総合博物館）

P8 漂着専門委員会報告：日本沿岸のストランディングレコード2007 石川創（〔財〕日本鯨類研究所），○田島木綿子・山田格（国立科学博物館），蛭田密（Aquatic Animal Consulting），小原王明（ウインズオフィス・コネクト）

P9 日本沿岸に漂着した海棲哺乳類の病理学的調査報告2007.1-12.31 ○田島木綿子（国立科学博物館），石川創（〔財〕日本鯨類研究所），真柄真実（鳥取大学），鈴木夕紀（アオイ環境株式会社），山田格（国立科学博物館）

P10 写真で見るセト研創立20年史—研究大会を中心に ○佐野修（石川県立自然史資料館），箕輪一博（柏崎博物館），平口哲夫（金沢医科大学），セト研第19回実行委員会



大会終了後

